

No.15

東京文化資源会議

「ティーチャ」

T-Cha

東京文化資源会議
Tokyo Cultural Heritage Alliance

ニューズレター

Shin Nakajima



Hana Tsubota



Seitoku Takuma



Hiroyuki Usui



@ Kanda Town

Planning Roundtable

神田らしさを継承し
より良いまちづくりへ

「神田 まちづくり 懇談会」

江戸から続く
神田というまちの歴史

徳川家康公が江戸幕府を築き発展した東京ですが、江戸開府以前は大きなまちもほとんどなく、村々が点々とある土地でした。そんな土地を土木工事によって海を埋め立て、水路工事を行い水路を軸に経済を発展させてきました。

水路のなかでも、江戸築城のために材木や石材が運び込まれた「鎌倉河岸」（現在の鎌倉橋）付近は多くの人が集まり、行商が立ち並び活況を呈していました。神田祭をはじめとする賑わいなど、神田地域一帯は江戸のお膝元として発展したまちであり、起業精神あふれた歴史が今なお続くまちです。

そんな神田も「都心回帰や市街地における建物やビルの更新などによって、大小様々な開発の動きが起きている」と中島伸さん（東京都市大学）は話します。再開発をより良いものとするため、地域にとって公共性や納得性の高い都市開発やまちづ

NEXT PAGE



くりとはなにかを議論する場が求められました。そこで、東京文化資源会議らが中心となり、大学関係者や地元住民、開発事業者らが集まり、これからの神田のまちづくりについて意見交換する場として、2016年から「神田まちづくり懇談会」が開かれるようになりました。

都市開発に揺れる 神田のまちをどう捉えるか

神田まちづくり懇談会では、活動方針として①統一性のある公共性のあるルール、②起業副業を支える職住隣接のまち、③大人が夜安心して遊べるまちの3つを掲げ、地元住民らが持つ神田というまちがこれまで培ってきた歴史や文化を紐解きながら、神田特有の価値を浮かび上げらせようとなりました。

懇談会の議論における大きなキーワードが、多様性です。「昭和までは江戸時代の形、職住近接な姿が残っていた」と話すのは、神田生まれ神田育ちの田熊清徳さん。多様な人たちが神田で商売を営む様子があちらこちらにありました。しかし次第にマンションが増え、住んでいるだけであまり地域との関わりのない人が増えてきました。新たに神田に移り住んだ人と地元住民との意識の違いや、地域の関わりへの差による地域コミュニティの希薄化に対する危機感があると田



Shin Nakajima

熊さんは話します。神田に根を張る地権者らも、単純な営利目的の不動産開発ではなく、しっかりと地域の価値を高めるための開発をしてもらいたいと考えています。

警察通りの賑わいづくりや、千代田区のまちづくりを支援しているUR都市機構の坪田華さんは「地域の人たちと接して感じるのは、神田には新たなものを採り入れる包摂性があること。開発をきちんと受け入れながら、いかにして多様性を維持し続けていくか、地元を大切にしながら適切な開発が求められる」と話します。開発事業者の方々も地元住民らの意思を尊重しながら、いかにして神田らしいまちづくりができるのかに向き合っています。



Hana Tsubota

都市の見えない価値を可視化 「神田かいわい指標」づくり

懇談会の大きな柱として見据えられた、神田のまちづくりにおける指標づくり。指標の柱として、神田というまちのテーマである「町々安全・商職繁盛」をもとに、神田の価値を客観的に測る

「神田かいわい指標」に向けて動き出しました。神田かいわい指標の作成は、東京大学の薄井宏行さんも参画して行ってきました。

指標では、地域をL1〜L3のレイヤーごとに分けながら解析をしています。数字が小さいレイヤーほど変化しにくく、数字が大きいレイヤーに影響を及ぼします。L1は街路・街区・敷地割で構成される「街割」です。街割が変わればまちが根本的に変わってしまい、さらに一度変わるとすぐには戻せません。L2の上物や建物の配置は、街割が変わることでもまちの様相は変わることを意味しており、L3の人の動きやテナント、街の営みに大きな影響を及ぼしています。

ここで言われている「神田らしさ」という目に見えにくい価値を、いかにして可視化することが重要と中島さんは話します。「神田のまちの見えない価値を掘り起こし、いかに次の世代へ引き継いでいくかが大事」と田熊さんも話します。

江戸時代から住まう家もあれば、戦後移り住んだ人もいる、多様なまちの人たちをもつて、今なお続く神田らしさとはなにかが問われているのです。

Seitoku Takuma

Hiroyuki Usui

やテナントの多様性や配置、街灯の位置などを調査したりフィールドワークをしたりしながら情報を収集します。それらを地図に落とし込み神田という地域一帯を俯瞰して見ること、地域が持つ価値や課題が浮かび上がってきます。

「地権者も自身の建物という点と、神田地域一帯という面におけるバランスや相乗的な関わりが見えてきます。建物や街路という見えるものだけでなく、地域が持つ見えない価値を見える化し、それらを参照することでより具体的な議論や対話が行える」(薄井)

指標やデータをもとに地元住民らとも意見を交わすことにより、「神田らしさ」という見えない価値を共通する認識を持ったものとして捉えることができるようになっていくのです。

神田らしさを継承する

まちづくり懇談会によるこれらの指標やデータは、行政によるまちづくり計画を推進する上でも大きく寄与することが期待されています。計画を立てる側にとっても、インプットしておくべき指標を示すことで、より実現性や納得性の高いまちづくりが行える(坪田)

もちろん、これらの指標やデータがあれば



完璧というわけではありません。あくまで、指標であり、そうした情報を議論の俎上としながら、継続的に、多様な神田の人々が未来のまちづくりに向けて議論することが大切なのは変わりありません。

町会に参加する、次の時代を担う若い世代や跡取り世代が地域に参画する機会をつくりだすことも必要です。世代交代のタイミングや古くから住まう住民と新しく居を構える住民らとの関係づくりを一つのチャンスと捉え、色んな立場の人たちがまちづくりの議論において、こうした指標が参照されていくことでより良い方向に進む指針となるはずですよ。

その先には、「神田らしさ」を次世代に継承させ、今後も続く神田のまちの賑わいにつながっていくことでしょう。

(記事構成：江口晋太郎 撮影：鈴木沙)



Seitoku Takuma



T-Cha NOW TOKYO PROJECT

東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。



崖覧会企画 精神文化を 体感する

2021年4月25日、デジタルアーカイブ学会第6回研究大会におけるオンライン開催の企画セッションとして、「都市における文化資源のアーカイビング」を開催しました。

地図ファブのみでなく、本郷のキオクの未来PT、東京ケーブルネットワークの皆様にも登壇いただくことで、広く都市の文化資源のアーカイブ活動（アーカイビング）の実践と課題、可能性について議論することができました。

事前登録が120名を超える盛況の中、質疑応答でも活発に意見が出され、新しい技術の活用や人材の確保、大都市圏以外

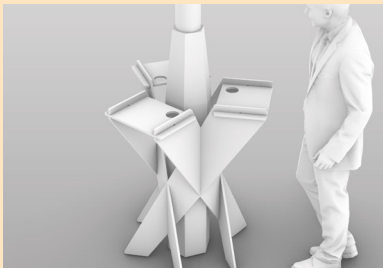
での地域アーカイブ活動の抱える困難など、具体的な問題に落とし込んだ情報交換も行われました。

また、2021年3月24日に開催した「崖覧会その昔 編著者が案内する『江戸東京の精神文化』と『精神文化ぶらり』」の観光につながる書籍コンテンツとアプリの記録映像を、東京文化資源会議T-Cha公式YouTubeチャンネルにアップいたしました。テロップや解説画像なども加えて、文化資源区での精神文化を楽しく知ることができるとして編集しています。
(<https://youtube.com/3p4ht3u1du>)

ガイトウスタンド 新バージョン 現在考案中

昨秋考案し好評を博したのが、街灯に着脱可能な立飲みテーブルを取り付けて新しい飲食空間を提供する「ガイトウスタンド」でした。その活動自体は、ソト飲みに対する逆風もあり現在は充電期間となっています。

ここ最近では、ガイトウスタンドの様々なバリエーションを検討中です。木材だけでなくデ



商店街を舞台 ウォーク&ブレイ 動画で体験も

デザインや、天板がお盆のように取り外せるデザインを、東京大学都市デザイン研究室の学生たちが中心となって、検討を進めています。

「こんなガイトウスタンドつくりたくない?」「こんな使い方でできるガイトウスタンド考えてほしい!」など、アイデアがあればどしどしお寄せください。緊急事態宣言が明け、街の様子も落ち着いてきた頃に、新バージョンも含めてまた再開・お披露目できたらと考えています。

スポーツ文化資源プロジェクトチームでは、上野仲町通りで実施されたGOTO商店街事業「しのばず遊ぼう!池と町」に参画し、上野の山から不忍池、仲町通りを舞台にした企画「ウォーク&ブレイ」を実施しました。

当初は2020年1月から2月に上野の山から池の端を歩くウォーキングイベントと、商店街の道路空間をつかったプレイイベントを実施予定でしたが、1月初頭の緊急事態宣言発出を受け、集客イベントの実施が不可能になったことから、それぞれ企画内容をもとにした動画を作成することとなりました。3月上旬にウォーク編およびプレイ編の2本の動画が完成し、3月28日に開催した関係者を集めた上映会では参加者の皆様から好評を得ました。

ウォーク編では、上野の山、不忍池、仲町までの起伏に富んだ上野の地形を歴史や文化資源に触れながら、自分のペースで歩いてゴールを目指します。プレイ編では、上野仲町通り商店街の魅力ある店舗や、全長270mの直線の通りを生かして10分時間当てウォーク、まちな



秋葉原放送局 多彩なテーマで 文化を議論

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、秋葉原のオノデン1階にオープンしたYouTube放送

用スタジオ「Akiba TV STUDIO」にて、東京文化資源会議と共同で今年4月からYouTube番組「広域秋葉原放送局 in しのばず中継」を3ヶ月に渡って全6回放送しました。秋葉原の歴史、秋葉原と池袋の比較、メイドカフェやアイドルなど多彩なテーマと豪華なゲストで番組を放送しました。放送はYouTubeのアーカイブから視聴することができます。

この他、4月には千代田区都市計画マスタープラン「改定案」に対して、公聴会にてこれまでのプロジェクトの活動をもとにした公述を行いました。5月には秋葉原の産学連携プラットフォームであるアキバテクノクラブにて、広域秋葉原作戦会議の取り組みについての講演も行いました。





NOW
TOKYO
PROJECT

まちづくり連携 活発な議論を 制度提案も視野

リノベーションまちづくり制度研究会（リノベ研）では、昨年7月の「ひじりばし博覧会」で立ち上げた「東京歴史文化まちづくり連携」の第2回フォーラムを、5月5日のひじりばし博覧会2021で実施予定でしたが、博覧会の中止を受けてフォーラム開催を延期することにしました。当日に多くのまちづ

くり団体の方々に予定を確保してもらっていたことから、5月5日はオンラインでの意見交換会を実施し、それぞれの団体が向き合っている課題や解決のイメージなどを共有する機会とすることができました。「ひじりばし博覧会」で予定していたフォーラムは7月末頃を目途にオンラインで開催を予定しています。その時には、ぜひ多くの皆さんに傍聴いただけるようにしたいと思えます。フォーラムの開催にとどまらず、歴史文化資源を活かしたリノベーションまちづくりに役立つ制度提案等に向けて、研究助成を受けることも視野に入れながら、引き続き取り組んでまいります。

総会を開催 コロナ以後に 向けた議論

5月27日、東京文化資源会議の総会を開催いたしました。今年には、コロナ禍による開催に伴い、オンラインによる総会となりました。

総会では、コロナ禍において試行錯誤した1年の各PTの様子や、コロナ禍において実施できた内容などを報告させていただきました。コロナ禍を経たこれから社会のあり方を踏まえ、今後の会議のあり方や、文化資源の発掘や活用に関するご質問やご意見も多くいただきました。いただきましたご意見などを踏まえ、引き続き、皆様とともにこれからの東京の分解源を活かした活動を展開してまいります。

総会以外でも、本会議に関してご意見がございましたら、いつでも事務局までお問い合わせください。また、総会資料は東京文化資源会議ウェブサイトのライブラリーにて掲載しております。

編集後記

COVID-19感染拡大を受けて、物理的な密を避ける様々な方法が試されてきました。伝統的な文化は伝統的なコミュニケーション（必然的に物理的な「密」を生じさせる）の上に成り立っているように見えるが、そこで必要なものは物理的な「密」なのだろうか。1年以上に渡って何を密にすべきか、コロナ禍という必然性とICTの進展という可能性の両面から考えてきました。会議の様々な活動も、コロナ禍がなければ文化資源の掘り起こしや捉え直しが「ありきたりな」方法で行われたに過ぎないかもしれません。最近、会議のオンラインコンテンツ（仮称）「不忍中継」が充実してきた。文化資源との関わり方の新しい体験を味わいたい。（陸）

アフターコロナを見据えて動きつつあります。それは、コロナ禍を経たことで、それ以前に戻るのではなく、新たな状態や価値提案につながる社会へと移行ゆくものです。こうしたタイミングを、ビジネスチャンスや新たな文化的な転換が起きる機会と捉えることができます。今は、そうした転換期に向けた大きなシフトのための準備だと思えば、新しいことに挑戦する意欲も湧いてきそうです。（江）



[ティーチャ]東京文化資源会議ニュースレター No.15

読み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会 デザイン：渋井史生(PANKEY inc.) 執筆：江口晋太郎(TOKYObeta Ltd.)

写真：鈴木渉 印刷・製本：スターツ出版株式会社 発行人：東京文化資源会議 発行日：2021年6月30日

〒110-0005 東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階 TEL：03-5244-5450 MAIL：info@tcha.jp URL：http://tcha.jp/

